

2006年12月の東北地方の天候

【12月の特徴】 ・ 高温、多雨、寡照

（1）2006年12月の概況

上旬は冬型の気圧配置が続き東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、気温も平年を下回った。その後は一時的に冬型の気圧配置となったものの、寒気の南下は弱く、気温の高い日が多かった。また、日本の南岸を低気圧や前線が通ることが多かったことから曇りや雨または雪の日が多く、日照時間が少なかった。また、26～27日にかけて低気圧が発達しながら南岸を通過し、大雨、暴風となった。このため八戸では月降水量が155.5mmとなり多い値の極値を更新し、宮古では263.5mm、大船渡では153.0mmと第2位の記録となった。。

月平均気温は東北地方で高い。月降水量は東北地方でかなり多い。月間日照時間は、東北北部で少なく、東北南部でかなり少ない。

（2）各旬の天候経過

上旬：冬型の気圧配置となる日が多かった。東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多かった。3日は上空に強い寒気が入ったため、青森では大雪となり、4日には日最深積雪58cmを観測した。

平均気温は東北地方で低い。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で少ない。

中旬：期間のはじめと終わりは弱い冬型の気圧配置となり、東北太平洋側ではおおむね晴れたが、東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多かった。期間の中ごろは、低気圧や気圧の谷の影響を受けやすく、東北地方は曇りや雨の日が多かった。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で多い。日照時間は東北北部で多く、東北南部でかなり少ない。

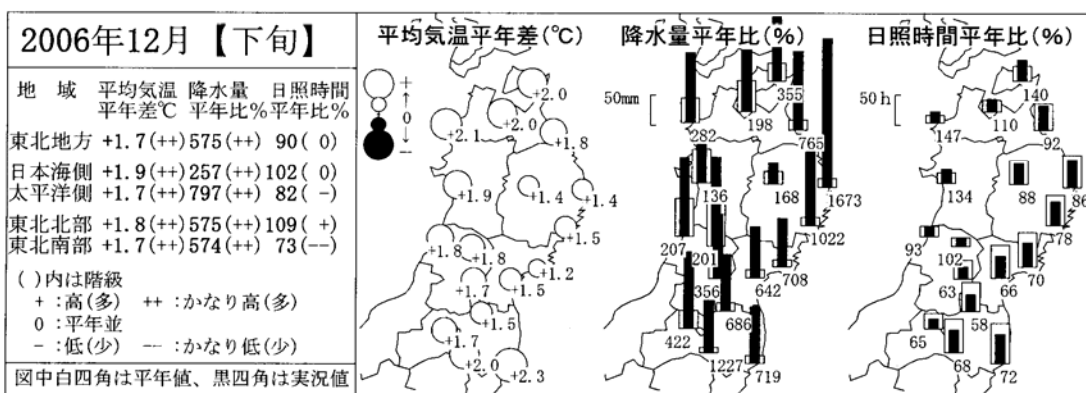
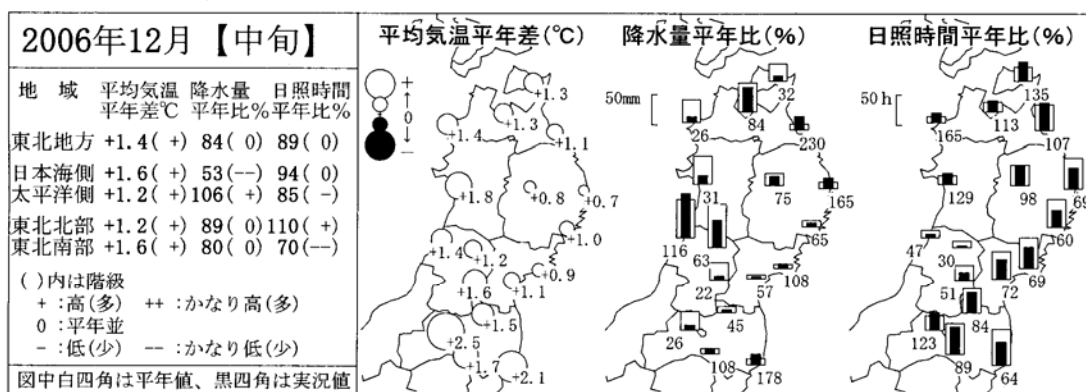
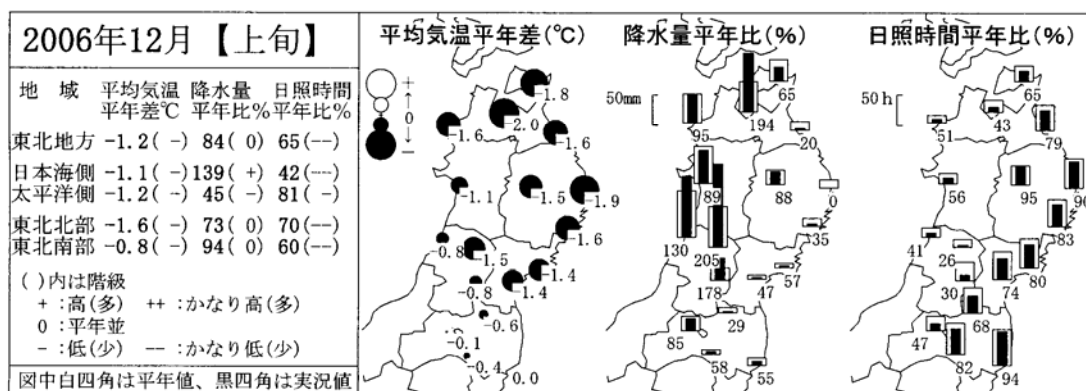
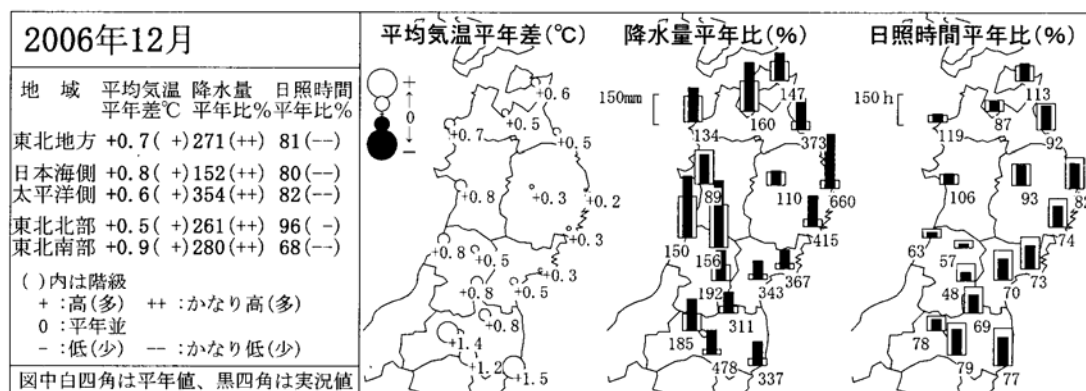
下旬：期間の前半は一時的に冬型の気圧配置となったが、高気圧に覆われて晴れの日もあった。期間の後半は、本州南岸から東北太平洋側沿岸を発達しながら進む低気圧の影響で天気が崩れ、26～27日にかけては大荒れの天気となった。これにより河川の増水による浸水害、強風による家屋破損や停電、鉄道の運休など各地で被害が出た

平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北地方でかなり多い。日照時間は東北北部で多く、東北南部でかなり少ない。

注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。
細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。
平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、3ページ目脚注2を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2006年12月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

注1) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2006 年 12 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級	降水量(平年比)階級	降水日数	日照時間(平年比) 階級	降雪深さ(平年値)階級	最深積雪(平年値)階級
	(°C) (°C)	(mm) (%)	≥1mm	(h) (%)	(cm) (cm)	(cm) (cm)
青 森	1.8 (+0.5) ○	238.0 (160) +*	20	47.7 (87) —	120 (170) —	58 (51) +
深 浦	3.2 (+0.7) +	169.5 (134) +*	17	40.9 (119) +	20 (77) —*	9 (17) ○
む っ	1.8 (+0.6) +	137.0 (147) +*	12	83.5 (113) +	23 (101) —*	7 (24) —*
八 戸	2.1 (+0.5) +	155.5 (373) +*	6	118.7 (92) —	9 (52) —*	3 (10) —
秋 田	3.6 (+0.8) +	145.0 (89) ○	17	50.6 (106) ○	38 (79) —*	8 (16) —
盛 岡	1.1 (+0.3) ○	71.0 (110) +	10	97.4 (93) —	15 (68) —*	5 (17) —
大 船 渡	3.8 (+0.3) ○	153.0 (415) +*	9	103.0 (74) —*	— (11) —*	— (4) —*
宮 古	3.2 (+0.2) ○	263.5 (660) +*	3	123.6 (82) —*	— (19) —*	0 (6) —
仙 台	4.8 (+0.5) ○	90.5 (343) +*	7	101.8 (70) —*	— (14) —*	0 (7) —*
石 巻	3.7 (+0.3) ○	91.0 (367) +*	7	112.9 (73) —*	— (7) —*	— (5) —*
山 形	3.2 (+0.8) +	148.5 (192) +*	17	41.2 (48) —*	17 (92) —*	10 (23) —
新 庄	1.9 (+0.5) ○	328.0 (156) +*	21	21.2 (57) —*	52 (168) —*	14 (50) —*
酒 田	5.1 (+0.8) +	302.0 (150) +*	22	28.1 (63) —*	1 (64) —*	1 (13) —*
福 島	5.0 (+0.8) +	101.0 (311) +*	6	90.3 (69) —*	1 (35) —*	1 (10) —*
若 松	3.3 (+1.4) +*	154.5 (185) +*	13	56.5 (78) —	33 (100) —	20 (28) ○
白 河	3.9 (+1.2) +*	119.5 (478) +*	6	125.1 (79) —*	5 (25) —*	2 (8) —
小 名 浜	7.6 (+1.5) +*	118.0 (337) +*	6	141.6 (77) —*	0 (1) ○	— (1) —

(注) 1. 平年値は 1971～2000 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+: 高い (多い) ○: 平年並 -: 低い (少ない)

各階級の区分値は、1971～2000 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる (各階級が 10 個ずつになる) ように決めた。

また、値が 1971～2000 年の観測値の上位または下位 10% に相当する場合には階級の「+」に * を付加した。この場合にはかなり高い (多い) かなり低い (少ない)

と表現できる。

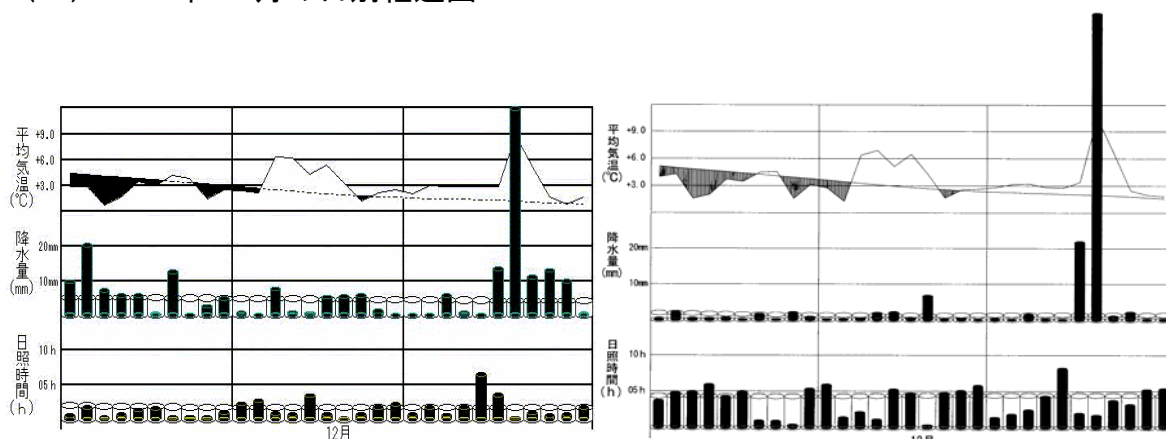
また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横に「) や」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ (日別値) に欠測等が含まれていることを示す。

) 付きの値 (準完全値) は通常のものと同様に扱うことができるが] 付きの値 (資料不足値) については、値の下に記載した統計日数 (統計に用いた、品質が十分な日別値の数) を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2006 年 12 月の日別経過図



東北日本海側の日別経過図

東北太平洋側の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均 (気温: 実線と点線、降水量・日照時間: 黒い円柱と白抜き円柱)

(6) 2006 年 12 月の極値・順位の更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間の 3 位まで。)

月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	八戸	155.5	373	137.4 (1958)	1937	41.7
2	大船渡	153.0	415	169.5 (1980)	1963	36.9
	宮古	263.5	660	281.7 (1958)	1884	39.9

月間日照時間少ない方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	開始年	平年値 h
1	大船渡	103.0	74	113.9 (1992)	1963	139.6
	新庄	21.2	57	21.8 (1966)	1957	37.3

(注) 値の横に「」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等、統計に用いなかった値が含まれている(資料不足値)。順位は更新順位以上になることは確実であるが、統計値の使用に際しては気候表に記載した統計日数を参照されたい。

平年値とは 1971～2000 年の 30 年間の値を平均したものである。

(7) 季節現象

2006/2007年寒候期 季節現象(初日)									
官署名	初 霜			初 氷			初 雪		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
青森	11.19	10.23	10.27	11.20	10.29	11.16	11.12	11.7	11.8
八戸	11.2	10.27	11.16	11.19	11.2	11.16	11.12	11.11	11.15
秋田	11.19	11.6	11.21	11.19	11.13	11.21	11.16	11.12	11.15
盛岡	10.22	10.18	10.26	11.2	10.24	11.1	11.12	11.8	11.15
宮古	11.18	10.31	11.10	11.18	11.5	11.10	11.30	11.16	11.30
仙台	11.18	11.06	11.20	11.19	11.16	12.3	12.2	11.22	12.3
山形	11.9	10.24	11.1	11.19	10.29	11.1	12.1	11.16	11.19
酒田	11.19	11.12	12.6	11.19	11.20	12.6	12.1	11.17	11.30
福島	11.19	11.6	11.17	11.19	11.11	11.17	12.3	11.24	12.3
若松	11.19	10.28	11.1	11.19	11.6	11.1	11.12	11.17	11.16
小名浜	11.25	11.11	11.18	11.25	11.19	11.21	12.29	12.13	12.15

初冠雪									
山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年	山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年
ハッコウダサン 八甲田山	1584	11.8	10.16	11.8	ガンドサン 雁戸山	1485	11.8	10.28	11.10
イウキサン 岩木山	1625	11.8	10.15	11.9	リュウザン 瀧山	1362	11.8	10.30	11.10
ハシカミダケ 階上岳	740	11.30	11.12	11.19	イズミガダケ 泉ヶ岳	1175	11.8	11.6	11.9
タイヘイザン 太平山	1170	11.12	10.31	11.9	ザオウザン 蔵王山	1841	11.8	10.23	10.24
イワテサン 岩手山	2038	10.9	10.13	10.24	アツマヤマ 吾妻山	1949	11.8	10.21	10.23
チョウカイザン 鳥海山	2236	10.9	10.9	10.25	イデサン 飯豊山	2105	11.8	10.17	10.24
ガツサン 月山	1984	11.8	10.15	10.26	ハンダイサン 磐梯山	1819	11.8	10.24	11.9
アサヒダケ 朝日岳	1870	11.8	10.19	11.10					

注：蔵王山は熊野岳、吾妻山は一切経山の標高を示す。

* 大船渡測候所が平成18年10月1日に特別地域気象観測所へ移行をしたことに伴い、大船渡における寒候期季節現象および五葉山の初冠雪の観測は終了しました。